

---

「アジアの宗教にみる神」プロジェクトは、前回の「アジアの祭りと芸能」プロジェクトの終了にともない、そのあとを継いでさらにおなじテーマをひろくふかく追求する目的で発足した。そのテーマは、日本人の宗教心とカミ観念をアジア諸民族との比較のなかできわめようという野心的なもので、一九九一年の四月にはじまり、一九九三年の三月に終了した。この集におさめた各論考はその二年間にわたる研究成果の一部である。

構成のメンバーは、本学所属の研究者としては、佐佐木隆（国文学）、新川哲雄（哲学）、諏訪春雄（比較芸能史）、武内房司（東洋史）、吉田敦彦（神話学）の五名、これに外部から客員研究者として、Arunasalam Sanmugadas（インド学）、黄強（中国民族学）、関根康正（文化人類学）、曾紅（文化人類学）、Manonmani Sanmugadas（インド学）、葉漢鰲（比較芸能史）の六人がくわわった。

本集におさめられた論考は、各人がそれぞれのもっとも得意とする専門分野にかかわる最新の問題を考察しながら、全体として、日本、中国、インドの諸地域の信仰、民族、カミ観念のありようが追求され、アジアの宗教と信仰における神のすがたの一端がうかびあがるように配慮されている。もちろん設定されたテーマが大きなものであるだけに、追求しのこしたものは大きいですが、現時点における成果として、ここに提示したい。ご教示とご批判をいただければさいわいである。

1994年6月

「アジアの宗教にみる神」

プロジェクトチーム

代表研究者 諏訪春雄

---